
YUIが悪と闘ったら 1 2

pokemomtyan

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

YUIが悪と闘ったら12

【コード】

N3406T

【作者名】

pokemonmtyan

【あらすじ】

クラーケンの脅威にYUI達が立ち向かう。

もしもYUIが聞いたら(前書き)

感想を書いてね。

もしもYUIが闘ったら

YUIの乗っていた船がクラークンの出現により破壊され、YUIは海に放り出された。YUI（ハアハア。あれが、クラークン？海の怪物・乗っていた皆が、クソ！）YUIは泳ぎながら、水を叩いた。イギリス艦隊は全滅に追い込まれ、YUI達が乗っていた、船にクラークンの触手が伸びようとした。ケイト（いや・もう終わりだわ！）堂本剛（このデカさでは、俺の能力を使っても無茶やで。葉加瀬太郎（ヒ）私は食べても美味しくないですよ！あつ！でも、私は太ってますし、脂肪も柔らかいので他の痩せている皆さんよりも美味しそうですね。何だかそんな事を考えていると、お腹が空いてきました。ヨホホホホホ。）一同（状況を読め怒！）その時、ケイトの足に触手が絡み、クラークンは海に引きずりこもうとした。ケイト（ぎゃ〜叫！）堂本（ケイト屋！喰らえ、クラークン！シークレットコード斬り！）堂本は刀を抜き、ケイトを掴んだ、クラークンの足を微塵切りにした。ケイト（剛怖かった泣）堂本（大丈夫か？ケイト屋）葉加瀬（ヨホホホホ。私も向かってくる、触手にバイオリンの仕込み刃で交戦しますが、全体が見えれば私の必殺技を食らわせれるのに。）堂本（葉加瀬屋！とりあえず、向かってくる触手を斬りまくれ！相手もそのうち、嫌がるやる！）葉加瀬（ヨホホホホホ。斬り落としていくタコさんの足を見ていると、またも、お腹が空いてきますね。やはりタコさんは、タコの中から揚げ、タコ焼き、タコの寿司、お刺身、タコのカルパッチョ、更に醤油と一緒に煮込んだら、大層美味しそうですね。あゝ我慢が出来ない！頂きます。ヨホホホホホ。）葉加瀬は斬り落としたクラークンの足を拾い、食べ始めた。堂本&ケイト（だから、状況を読めって言ってるんだ叫！）葉加瀬（ヨホホホホホ。お二人とも。あんまり怒っては、いけませんね。疲れが溜まりませんか？因みに、タコにはタウリンが豊富に含まれていまして、疲れを取ったりします。もし宜

しければ、私がMyマヨネーズを持っていきますので、皆さんつけてみて食べませんか?) 葉加瀬はマヨネーズを差出した。ケイト(シヤラップ叫!) マヨネーズをケイトは弾き、海に落とした。葉加瀬(お)まいゴッド! ケイトさん! 英国王室は食べ物を粗末にして良いのですか! 何てもつたいない事を! 福島県や被災地の方々はごはんも食べれないのですよ! 彼等に謝罪をしなさい!) 堂本(葉加瀬屋! 一回、お前はクラーケンの餌になるか!) 葉加瀬(ヨホホホホ。それは嫌です!) しかし、またもクラーケンが触手を伸ばした。堂本(あかん! また、来るで。こうなったら、ROOM...) 堂本は変な模様の実の能力で、円を作り出そうとした。しかし、遠方で睨みをきかせていた、クラーケンを操るセイフと基雄が泳ぎ、船に乗り込んできた。セイフ(ジャーハハハハ。僕の可愛いペットを殺させはしないぞ!) 基雄(バホホホホ! 俺様も戦いに加わるぞ!) 堂本(また、厄介な奴が...) クラーケンの触手が一同に向かった。ケイト(しまった!) その時、海からYUIが現れた。YUI(TOKYOU斬り!) YUIは太い触手を一刀両断した。ケイト(YUI! 生きていたのね。) YUI(ハアハア。泳いで此処まで来たよ。) 葉加瀬(ヨホホホホ。YUIさん。水に濡れて下着がまる見えですね。ぶしつけながら、服を脱いでパンツとブラジャーを見せてもらえないでしょうか?) YUI(見せるか怒!) YUIは葉加瀬を頭から叩いた。神崎昂(ハアハア。僕も海に放り出されて、泳いできました。) YUI(神崎さん大丈夫ですか?) 神崎(何とか大丈夫です。所で、僕が帰ってきたご褒美にYUIさん。ケイトさん。下着も脱いで生まれたままの姿を見せてくれませんか? ハハハハハ。) YUI&ケイト(お前が一番悪いは!) 堂本(そんな事よりも神崎屋、長芋はどうしたんや。) 神崎(残念ながら、あのアホはみつきりませんでした。けど、まあ生きてるでしょ。探さなくても良いですよね?) 一同(そうだな。) セイフ(お前等... 正義側の人間なのに結構酷いよね...) 基雄(うん...) YUI(お前等... 誰に言われたんだ! 私達の行動を知っていたそうだな怒!) セイフ(う

くん。可愛いYUIちゅわくん。それは言えにやいにやゝす 僕ちやんの側室になってくれるんなら言ってあげるよ！) YUI(タコハゲの愛人にはならん！斬る！) セイフ(うゝん。気が強いにやゝだったら、力づくで押し倒すにやゝ)。) 基雄(バホホホホ！セイフさん。お前さんのやり方は、愛が見えるな。だが、俺がYUIを仕留めるぜ！) セイフ(半殺しにしたら、僕に差出せ笑。) 基雄は高く飛び上がり、両ポケットからボウガンを取り出した。基雄(喰らえ。YUI！中国漁船矢じり飛ばしアタック発射！) 中国漁船が、日本船に当たったぐらいの勢いの矢じりがボウガンから飛ばされた。YUI(うわ！) YUI(可笑しなボウガンだな？普通の矢じりでは無いな？) 基雄(この矢じりの破壊力見せてやる！) 基雄はボウガンを発射させて、イギリス海軍の兵士の残党の肩を貫いた。兵士(ぐわあ。肉だけでなく骨にまで響く。しかも抜けん！) YUI(何でだ？) 基雄(バホホホホ。俺のボウガンの矢じりは、漁業矢じりと言って、漁業用の魚を刺す時に絶対に抜けない矢じりを使っている。更に見よ！) 矢じりが肩に矢じりが刺さったままの兵士を連れて戻ってきた。YUI(な・何？) 基雄(此れには、漁業用の見えない頑丈な釣り糸と一緒につけている。) 基雄は兵士の胸座を掴み、もう片方の矢じりを喉仏にさして殺した。兵士^が基雄(バホホホホ。この武器にかなうまい！) YUI(隙あり！Rain斬り！) YUIの刀をボウガンで基雄は受け止めた。基雄(ハアア。刀技が中々だな。では見よ！俺の変な模様の実の能力！) YUIは危険を感じ、バック転で後ろに下がった。YUI(何の能力だ？某漫画の、バンダーデッケンのマトマトの実か？) 基雄(違う。その能力はお前がかつて闘った、民主党経済産業大臣の海江田万里の能力だろ。俺はロギアだ！) 基雄の体が解け始めてそこから辺に広がった。YUI(この能力は何だ！) ケイト(嫌だ！私の体に絡みついたは！) 基雄(バホホホホ。そりやあゝプリンセス。大人しく捕まりやがれ)。) ケイト(嫌だ！) YUI(ケイト！) 基雄(バホホホホ。俺は沼の能力を持っている沼人間だ。底なし

沼の如く、もがけばもがくほど、動けなくなるよ〜お馬鹿さん！）
セイフ（うわ〜凄いな！ケイトを拉致してよ！基雄！）基雄（バホ
ホホホ。だったら、俺の体に呑み込むかい！）ケイト（助けて！）
YUI（一刀流奥義・・・）基雄（？）YUI（Rolling回転
斬り！）YUIは風力を起こして、基雄の肩を斬った。基雄（痛え・
・覇気で俺を斬ったか・・・）ケイト（YUI・・・怖かった。）YU
I（堂本さん！ケイトを守って。）堂本（分かった！）セイフ（ジ
ャーハハハハ。僕が相手だ！）堂本（相手になったら！）その光景
を見ていた神崎昂は思った。まずい・・・セイフと基雄のアホどもが
調子に乗り始めている。今回の任務はイギリス海軍を殲滅して、Y
UI達を殺す算段を取っていたのに、コイツ等ではYUIや堂本に
斬られてしまうかもしれない・・・神崎は頭を回転させ、瞬時にある
事を思いついた。神崎昂（僕の変な模様の実の能力でセイフと基雄
は助けて退かせ、海賊船以外のイギリス海軍の船を沈めてしまえば
良いよな・・・能力的にはクラーケンも退くであろう・・・フフフ。）
神崎は声を発した。神崎（セイフ！貴様等は今すぐに退散をしる！
この他にも、海軍の増援が来る。お前等に勝ち目は無いぞ叫！）セ
イフ（それは本当なのか！）神崎（本当だ！既に1時間前に連絡が
入った。諦める！）セイフと基雄は首をかしげたがやはり、彼等は
単細胞だった。セイフ（ジャーハハハ。者ども退け！）基雄（良い
のか？）セイフ（何と無く、僕には嫌な予感がするぜ。）二人は海
賊船に戻った。葉加瀬（あいつ等が退いていきますね。）YUI（
何かの作戦か？）ケイト（神崎・・・今のは嘘よね？）神崎（無駄な
争いを避けて、一度退いてコルシカ島に戻って、新たに軍の再編を
しましょう。）堂本（機転を利かせたな。）葉加瀬（私は安心して
お腹が空きました。皆さん！クラーケンの足を食べましょう。）Y
UI（食えるか。）神崎は後ろを向いて笑った。神崎（今だ・・・僕
の能力を発動させる。まだ、使いこなせていないが、場合によつて
はEの組織のボスを倒せる能力だ・・・だが、コイツ等にはまだ使わ
ぬ野望の為に！）神崎は瞼を閉じて、空を見て力強く見開いた。父

親が日本人、母親がアメリカ人の混血の少年の青い目からは、血柱が立っていた。YUI（空が何で？）堂本（さっきまでの曇りがまた広がっている。）雨が降り始め、風が吹き、雷が鳴り嵐になった。ケイト、地中海でありえない！）YUI（しっかりつかまれ！）葉加瀬（ヨホホホホ。私は太っているのです、背広から蒸れます。）一同（うるせい！）神崎（まずいですよ。このままじゃあ沈没しますよ。）しかし、神崎は目が笑っていた。俺の能力はまた上がったと・・・続

もしもYUIが聞いたら(後書き)

感想を書いてね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3406t/>

YUIが悪と闘ったら12

2011年5月17日15時10分発行